

岩倉総合高等学校の敷地にいる生物から見る
絶滅危惧種の現状

-原因とその対策-

I 要旨

私たちは環境問題について調べる中で、環境問題によって絶滅の危機に瀕している生物種が多いことが分かった。現在 213 万 1,499 種もの生物が絶滅の危機に瀕していることがわかり、詳しく知ろうと思い調べ始めた。WWF ジャパンによると「絶滅危惧種」とは、絶滅のおそれが生じている野生生物のことを指しており、現在、存在が確認されている野生生物は 213 万 1,499 種類ある。ただし、分類によっては、まだ研究や調査が不十分であり、危機の現状が分かっていないものも少なくない。何より、現在の地球上には、未知の種を含む、数百万または数千万種ともいわれる生物が、実際には存在しているとも推定されている。様々な要因により絶滅危惧種になる生物がふえている。その原因の多くは人間の生産活動によるものが多くをしめている。私たちは生きていく上で様々な活動を行う。田畑を耕して野菜などの食物を生産し、農場では牛や豚、鳥などを飼育するというような生産活動だけではない。住む場所を広げるために野山を切り開く、干潟や砂浜、海を埋め立てるなど自然の環境を人間の手によって大きく変えてしまうことがある。あるいは狩猟などによる「乱獲」、「外来種」を持ち込むことによる在来種への影響なども人間による被害だ。また「地球温暖化や気候変動」も私たちの生活だけでなく、動植物にも大きな影響を与えている。

II 調査①

(1)調査(検証)方法

私達は、身近な生物で外来生物と絶滅危惧種の現状について調べるために、岩倉総合の敷地内でフィールドワークをすることにした。2023年11月に実際にグラウンドの周りを中心にフィールドワークを実行し、発見した生物を記録した。

(2)結果

実際に岩倉総合の周りの生物について調べてみると、多くの外来種を発見した。特に外来のたんぽぽが多く生息しており、在来のたんぽぽは見つけられなかった。岩倉総合高等学校の敷地内に生息しているたんぽぽはすべて外来種だった。他にはセイタカアワダチソウという北アメリカ原産である外来種の植物がグラウンドの北側に生息しており、周りには在来の植物がみられず、この種のみが繁茂していた。また、ブタナという要注意外来生物も見つけられた。この結果から、外来種は在来種に対しての影響が大きいと言える。絶滅危惧種を守るために、外来生物を駆除する必要があるが、私たちのような一般人にとって、その対策を実施することは難しい。このことから、外来生物以外の原因について考えることが求められる。



在来のたんぽぽ



外来のたんぽぽ



セイタカアワダチソウ

(3) 考察

絶滅危惧種の原因として挙げられる「地球温暖化や気候変動」、「乱獲」、「土地の開発・汚染」、「外来生物」は、すべて環境問題であり、これらの環境問題はほとんどが人間の産業活動によるものであると考えた。私たちが生き物を守っていくためには、人間の産業活動のありかたを変えていく必要があると考えた。人間の産業活動のありかたを変えるためには、環境への配慮をする必要性を認知し、実践していく必要がある。このような対策の一つとして、SDGsが適すると考えた。持続可能な開発目標（SDGs）とは、すべての人々にとってよりよい、より持続可能な未来を築くための青写真である。このことを実現していくために、人々の環境問題の関心を調べることにした。

Ⅲ 調査②

(1) 調査(検証)方法

環境問題に関するアンケートを作成した。このアンケートでは、「1、この中であなたが

一番関心のある環境問題は何か」、「2, 1 の理由」、「3, 環境問題の対策をしているか」、「4, 対策として何をしているか」の計 4 つの質問をし、岩倉総合高等学校三年生 76 名に答えてもらった。

(2) 結果

アンケートの結果 1 番の問いには、気候変動が過半数を占めており次いで生物多様性、環境汚染、森林伐採、なしという結果になった(図 1)。気候変動を選んだ理由として、「最近ゲリラ豪雨がひどいから」、「どんどん暑くなってきているから」などがあげられた。八割近くの方は環境問題に興味を示しているという結果になった。2 番目の問いには実際に対策をしている人の割合は約 6 割以上が実際に対策をしていないことが分かった(図 2)。

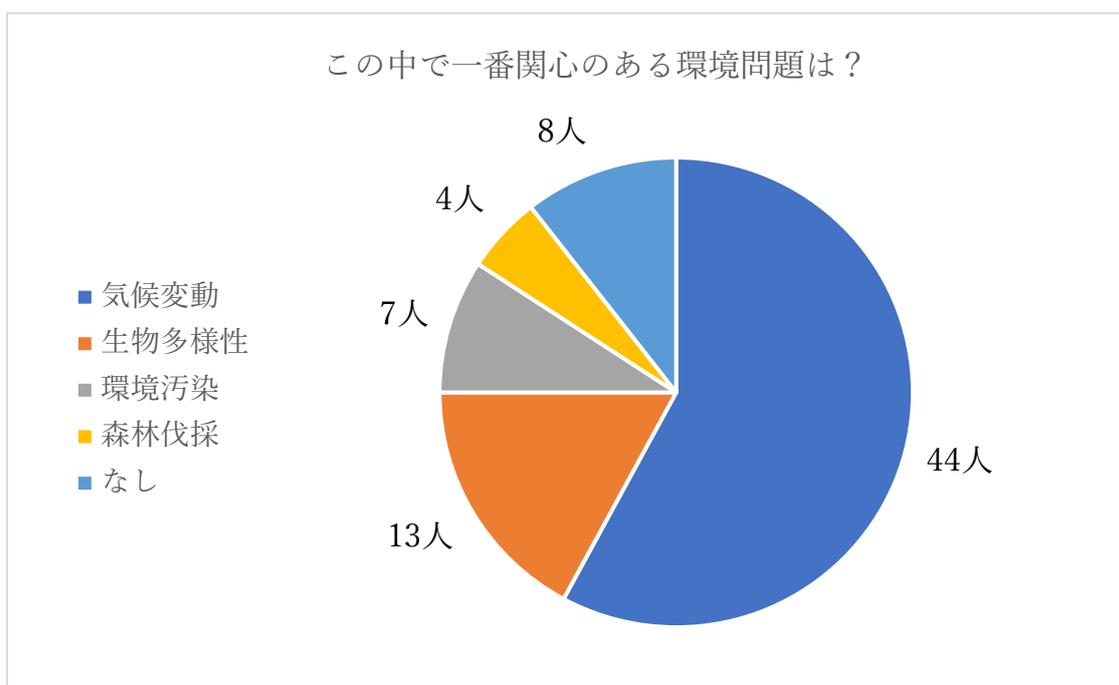


図 1

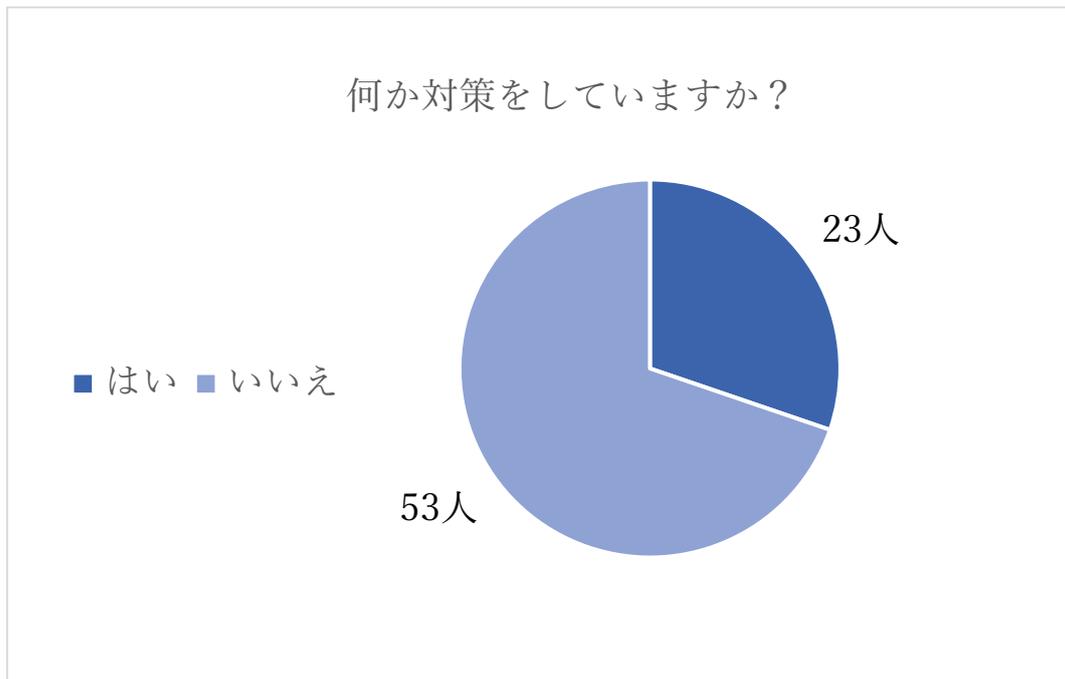


図 2

(3) 考察

近年、温室効果ガスの上昇により、日本の年平均気温は徐々に高くなってきている。夏場の最高気温は 35 度以上が当たり前になっているため、一番目の質問で「気候変動」と答える人が多いのではと考える。また、度々テレビや新聞などで、環境問題や SDGs について紹介されていることから、環境問題に対する関心は高いということも導ける。しかし図 2 では環境問題の対策をしてないと答えた人は半分以上に上っている。これらの結果から、環境問題に対する関心はあっても、その対策に対する関心は薄いと私達は考えた。テレビなどで報道されていることから、無意識のうちに、周りの人々が対策を実施しているから自分もしなくてもいいと思いつているのではないだろうか。このままでは、いくら効果のある対策があっても、それを実行する人が少ないことで、環境問題の解決へは繋がらない可能性がある。

V 感想

絶滅危惧種を守るためには、今あるさまざまな環境問題を解決しなければならない。そのためには私達の環境問題に対する意識を変えることが必要だと考える。身近な環境問題に目を向け、その対策を私達の生活に取り入れることで、絶滅危惧種の解決へ繋がるのではないだろうか。

VI 参考文献

[WWF ジャパン](#)

[SDGs ってなんだろう？ | SDGs クラブ | 日本ユニセフ協会（ユニセフ日本委員会）\(unicef.or.jp\)](#)

[温暖化の影響 Q10 温暖化と生物の絶滅 | ココが知りたい地球温暖化 | 地球環境研究セ](#)

[ンター \(nies.go.jp\)](https://nies.go.jp)

[「野生生物」との共存を考える | J-STAGE](#)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jpkankyo/14/0/14_KJ00007485951/_article/-char/ja/

第2次岩倉市環境基本計画(2023年度～2032年度) | 岩倉市

<https://www.city.iwakura.aichi.jp/cmsfiles/contents/0000000/98/keikakusyo.pdf>

福岡県のウミガメ-産卵と漂着の記録-

https://www.jstage.jst.go.jp/article/hrghsj1999/2003/1/2003_1_2/_pdf